



理事会の様子

▶ 第6回理事会開催！

6月2日に日越大学は2021-2026年度第6回理事会を開催しました。理事会では日越大学の2025年1月~5月の活動が報告されました。また、ODA借款を活用したホアラック新キャンパス建設計画のプレ協力準備調査が正式承認されたことなども報告されました。理事会では、日越大学の定款や学長・副学長制度の見直しなど、今後の日越大学の持続可能な発展、教育・研究の質向上を推進するための重要な議論が活発に行われました。今回の理事会の開催に合わせて、JICAからも調査団が派遣され、理事会に参加するとともに日越大学プロジェクトフェーズ3に向けた調査が行われました。

今月号の内容

- 第6回理事会開催！
- 日本語教育プログラム2025年夏季教員研修実施
- 中央大学とのオンライン交換会を実施
- 日本語教育プログラム(JLE)久好孝子先生のご紹介
- 地域・企業・大学がつながる学び 高知大学で実践的インターンシップ
- 大学基準協会などによる共同認証プロジェクトが日越大学を認定

▶ 日本語教育プログラム 2025 年夏季教員研修実施

日本語教育プログラム (JLE)では、6月3日(火)と6月4(水)の2日間に渡ってJLEの常勤・非常勤講師を対象に教員研修を実施しました。初日は「評価」をテーマに、松井専門家、山川専門家、久好専門家、齊藤専門家による講義およびワークショップを行いました。参加者は各レベルで求められる日本語能力やレベル間のアーティキュレーションについて議論し、プロセス評価や認知言語学からの視点、テストの語彙難易度判定ツールの活用方法などについて学びました。



グループワークの様子

2日目は「コース内容および教材検討会」を行いました。これまでの各レベルの目標を再確認しながら、各コースで教える内容や教材、指導方法の改善に向けた活発な議論が交わされました。この2日間の研修を通し、教員一人一人が指導への理解を深め、新学期の授業計画に向けた意欲を新たにしました。



教材の見直し



参加教員

▶ 中央大学とのオンライン交換会を実施

6月5, 9, 12日の3日間、中央大学の学生と日越大学の学生がオンラインにて意見交換を行いました。このセッションは、中央大学の文学部と国際情報学部の教員の共同プロジェクトの一環であり、90分×3回の国際協働学習 (COIL)です。両校の学生たちはそれぞれのテーマに対して活発な意見交換を行い、異なる視点や文化背景を交えた議論を通じて相互理解を深める貴重な機会となりました。



プログラムに参加した学生の様子



日本語教育プログラム (JLE) 久好孝子先生のご紹介

今月号では、日本語教育プログラムを支援してくださっている久好孝子先生より、先生の研究内容や先生の視点からの日本語教育プログラムの特徴についてお話を伺いました。



日本語教育プログラム 久好孝子先生

先生の研究分野について教えてください

私は主に日本語が他の言語とどのような点で共通し、またどのような点で異なるのかを、外国語として日本語を学ぶ学習者の視点から分析しています。

たとえば、学習者からは「日本語は主語が省略されることが多くて難しい」「『あげる』『もらう』『くれる』の使い分けが複雑だ」といった声がよく聞かれます。これらの現象は、実は日本語の文法や認知の仕組みに深く関係しているんです。

私は日本語を母語とする話者が無意識に使っている文法的なパターンを、英語や韓国語と比較しながら分析し、それを学習者にとってわかりやすく説明するための方法を探求しています。日本語教育において、理論と実践をつなぐ役割を果たす研究を目指しています。

日越大学 日本語教育プログラムの長について教えてください

日越大学の JLE では、学生一人ひとりの日本語能力に応じて、適切なレベルで学べるよう、丁寧にカリキュラムが設計されてい

ます。このような語学教育の連続性こそが、JLE の大きな特長の一つだと言えます。たとえば、大学から日本語の学習を始める学生も、高校である程度の日本語を学んできた学生も、それぞれの習熟度に合ったクラスで学びを深めることができます。

このような学びを支えるために、JLE の教員は、自分の担当するクラスに限らず、他のレベルの学生がこれまでどのような内容を学び、今どんな力を伸ばすべきか、そしてその先にはどんな学習につなげていくのか、そうした全体の流れを教員間で共有しています。その一環として、教材の見直しや教員研修 (今月号の記事「日本語教育プログラム 2025 年夏季教員研修実施」でその様子をご紹介) を定期的に行い、指導内容の質を高めながら、教員同士の連携や協働体制を大切にしています。

日越大学の在學生に一言メッセージをお願いします

日越大学は、ベトナムと日本、両方の大学のいいところを取り入れた新しいスタイルの大学です。成績が優秀な学生は、学部生のうちから日本を訪れるチャンスがあり、国際的な感覚や視野を自然と身につけることができます。

各プログラムは日本の大学がサポートしていて、日本からのバックアップも充実。さらに、日系企業でのインターンシップも多く、実際のビジネスの現場を体験するチャンスがあります。日本とのつながりをより身近に感じられる環境が整っています。自らの未来を切り拓こうと志を抱いて入学された皆さん、日越大学で、その第一歩を力強く踏み出してください。

▶ 地域・企業・大学がつながる学び 高知大学で実践的インターンシップ

5月12日から6月6日の4週間、学部 スマート農業とサステナビリティプログラム1期生（3年生）の3名が、高知大学でのインターンシップに参加しました。このプログラムは、昨年締結された高知大学との大学間協定に基づき、同大学農林海洋科学部の全面的な協力のもと実現したものです。インターンシップは同学部の講義や研究室訪問からスタートし、高知県立農業担い手育成センターや四万十みはら菜園でのフィールド実習、井上石灰工業株式会社でのインターンシップ、先端農業施設の見学など、実社会と大学が密接に関わる学びと体験が盛り込まれました。また、日本人学生や留学生との交流機会もあり、異文化交流も楽しむことができました。高知県の環境を活かした教育・研究を行う Super Regional University である高知大学ならではのプログラムを通じて、学生はスマート農業の現在と未来を学び、「今後のキャリアを考えるうえで大きな転機になった」と話しています。



インターンシップ中の学生の様子

▶ 大学基準協会などによる共同認証プロジェクトが日越大学を認定

5月27日に大学基準協会（JUAA）など複数の機関が共同で実施している共同認証プロジェクト（iJAS）による認定を受けました。この認定はベトナム国内では初となります。大学基準協会は、ベトナム政府（教育訓練省）から正式な承認を受けており、今回の認定は、ベトナム国内で求められている認証評価と同等に取り扱われます。この認定に関する実地調査の様子はメルマガ 2025年3月号で取り上げています。

人事往来

【離任（2025年6月）】

・久好 孝子 : 日本語教育プログラム

■ 日越大学の情報発信

日越大学ホームページ

<https://vju.ac.vn/>

日越大学 Facebook

<https://www.facebook.com/vnu.vju/>

JICA プロジェクトページ（ODA 見える化サイト、メルマガのバックナンバーもこちらから）

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1901195/index.html>

■ 産学連携・採用に関する問い合わせ

E-mail: cooperation@vju.ac.vn

■ メルマガに関するお問い合わせ

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト メルマガ編集部

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト

日越大学メールマガジン Vol. 76

2025年6月号